

水本新会長記者会見概要

【日 時】 平成 25 年 7 月 30 日（火） 午後 3 時 30 分～ 3 時 44 分

【場 所】 都道府県会館 5 階 全国都道府県議会議長会会議室

【出席社】 朝日新聞社、沖縄タイムス社、共同通信社、四国新聞社、時事通信社、
日本経済新聞社、北海道新聞社 7 社 8 名

【水本会長挨拶要旨】

○水本会長 本日の総会で第 66 代の会長に選任されました香川県議会議長の水本勝規でございます。

地方自治を取り巻く情勢は、依然として厳しく、多くの課題が山積いたしております。

このような重要な時期に、伝統ある全国議長会の会長職という重責を担うことは、誠に光栄であるとともに、大いに身の引き締まる思いでもあります。

私は、香川県議会議員として 18 年、その前に町議会議員として 17 年、通算 35 年余り地方議会議員として、一貫して「地域に学ぶ」という姿勢で地方自治に携わって参りました。

この間、昭和から平成に時代も変わり、平成の大合併をはじめ地方をとりまく環境は大きく変わりました。しかし、地方が元気でなければ日本が元気にならないということは変わっていないと思っています。

そのためにも、地域経済の活性化、真の分権型社会の実現、さらには、東日本大震災からの復興などに向け、47 都道府県議会の力を結集して、全力で取り組んでまいる決意であります。

このほか、本会の重要課題であります地方議会議員の位置付けの明確化、都道府県議会議員の選挙区制度の見直しについても、早期実現に向け、引き続き要請をしてまいります。

特に、選挙区制度の見直しについては、先の通常国会に自民党、公明党が共同で公職選挙法の改正案を提出し、継続審査になっております。統一地方選挙は平成 27 年であり、期間もあまりないことですから、早期成立のために尽力したいと考えております。

以上、簡単ですが、私の所信を述べさせていただきました。

記者の皆様、マスコミ各位におかれましては、本会へのご理解とご支援をよろしくお願いを申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

【質疑応答要旨】

- 共同通信社 道州制に対しての会長自身のお考えと、今後、議長会としてこの問題に対して、どのように対応していくのか、お考えをお聞かせください。
- 水本会長 道州制については、個人的な意見を先に申し上げると失礼かと思いますが、香川県におきましてもいろいろな議論はいたしておりますが、未だ議論を集約するには至っておりません。よって、皆様方もお考えは同じかもしれませんが、全国の対応についても、今の議論を踏まえて、その対応を一生懸命やっていくというような内容でよいのではないかと考えております。
- 全国的にいろいろな議論があるところですから、その議論については、これからの経緯を見ながら対応していくということで、ご理解をいただけたらと思います。
- 共同通信社 会長ご自身として、賛成・反対など言えるのでしょうか。
- 水本会長 私自身は、賛成か反対かと言われても、私自身がどちらとも言える資料を持ち合わせていない。まだ政府からも、自民党からも、公明党からも、そこまでの資料が提出されていないのかなと考えております。そういう意味から、個人の意見として、申し上げたわけであります。
- 日本経済新聞社 今回参院選が終わって、国政の方では、おそらく3年間、国政選挙がないかもしれないと言われております。長期にわたって国政の方と向き合うに当たって、議長会としては何を最も訴えていこうとされるのか。あるいは、何ができれば議長会として役割を果たしたことになるとお考えでしょうか。
- 水本会長 国民の審判は、政権の安定を望んだというふうに思っております。そういった考えからいたしますと、今言われたように、現政権が3年間続くとするのであれば、まずは今までの課題、とりわけ震災等からの復旧・復興など、今手掛けているものは迅速かつ丁寧な処理ができるように努力していくのが、喫緊の課題としてあるのではないかと考えます。
- また、急ぐ制度上の問題で言いますと、選挙制度等も今まで議論してきたものがありますので、これもやはり地域としての、地方六団体の1つの意見として、早く成立させていただきたいという想いもあります。
- それから、3年間という議論の中ではないのですが、やはり全国的にアベノミクスとか色々言われているけれども、地方にその三本の矢が見えるか、音が聞こえるか、更には着実な足音が自分の目の前であるかという状況下になるようにやっていきたいと考えております。
- 朝日新聞社 地方議員を35年と長くやっておられるということで、今の国の政策

を地域の立場でご覧になっていて、「本質が分かっていないな」とか「こういうところが足りないな」というご指摘があれば伺います。

○水本会長 私の方から指摘するという話ではありませんが、冒頭にもお話したのですが、私は議会活動を長期間やってきましたけれども、「地域に学ぶ」という自分の想いと一緒にこの地方自治に携わってきました。地域というのは、私の場合、香川県ですけれども、香川県は全国でも小さい県なのです。それでも、小さな町の中にも一つ一つの地域があるわけでありまして、先生に学ぶというのと同じように、地域に学んで、いかにその地域に返せるかということがわからなければならない。すなわち、国も国会の先生がおいでになるわけですから、国会の先生方自身が、我々都道府県会議員と同じように地方の目を見る、地方の、国民の声を聞くという方向に私はなってくれていると思います。ましてや選挙の終わった時ですから、今国民が選択したものに向かって、国の方も大きく舵を取り換えて、我々地方に先ほど申し上げたように三本の矢が見えるように、また音が聞こえたり、足音が目の前にするようにしていただけたらよいと私は思っております。

とりわけ私は、政治というのは真摯に地方に向き合って、さらには、国民一人一人を思う気持ちがあれば、これは都道府県会議員であっても国であっても市町であっても区であっても、同じ目線で同じ議論ができると思っております。答えにはちょっとならなかったかもわかりませんが、そう思っております。

○朝日新聞社 昨今の山積している課題の中には全国組織として集約が難しい課題がいくつかあると思います。先ほど出た道州制、それ以外にも、TPPであるとか原発の防災対策などについて、はなから意見は多様であろうとわかっているものについては、今後はどのような形で進めていくつもりなのか教えてください。

○水本会長 宗教的な言葉ですけれども、道元禅師が言われた言葉を借りて言いますと、「杓底一残水 汲流千億人」。私の議長の就任の時にも申し上げたのですが、やはりこういった気持ちでやっていかなければならないのではないかと思っております。

それと、まとまらないからまとめないではなくて、意見はいくらあっても拝聴して、冒頭申し上げたように地域に学ぶ姿勢でやっていけば、おのずから道は開けると思います。全国組織という想いの中で、寄り添える都道府県会議議長会として、可能な限り意見の取りまとめはしてまいりたいと思っております。

いくら難しいからといって、たな上げや雨ざらしにする必要はないと思います。あえて我々はそれを避けて、一生懸命ぶつかってやるのが国の方を動かすのではないかと思っております。

○沖縄タイムス 総会の中でも沖縄県の喜納議長から発言がありましたけれども、議

長はオスプレイのことに特化していましたが、特に米軍基地の問題、安全保障の問題について、会長は個人的にどうお考えかということと、議長会として今後沖縄の負担軽減だけに限らず、オスプレイの訓練の飛行ルートは四国も入っていると思いますので、その辺どう今後対応されていくのか、ご見解をお聞かせください。

○水本会長　まずは基地問題ですが、今日、沖縄県議会議長さんから発言がありました。議長会の会員みんなで拝聴いたしました。無論、沖縄県のみならず全国レベルでのお話として承りましたから、この部分については十分拝聴した上で、皆様のご理解の中で対応してまいりたいと思っております。

とりわけ、オスプレイについては、今日もわざわざ引き抜いてご説明もございました。沖縄県のみならず、これは全国の問題としての提案になっておりますので、真摯な対応とさらには沖縄県民の思い、先ほども申し上げましたけれども、その地域の思いを真摯に我々は受け止めて、その議論に参画し、よりよい方向性を見つけていくための努力はしたいと思っております。

(以 上)